

社会と歯科医療・チーム医療（大学間連携 IT 教育）（4 年）

コーディネーター：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 城 茂治教授

第 4 学年 通年

講義 7.5 時間
演習 4.5 時間

教育成果（アウトカム）

我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有する患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

そこで、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を E-Learning（三大学連携 IT 教育システム）を通して身につけることにより、国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）に到達する。

事前学修時間（30 分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
9 月 11 日（金） 4 限	城 茂治教授 （歯科麻酔学分野）	オリエンテーション 三大学連携 IT 教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携 IT 教育で学ぶ目標を説明する。 2. IT システムに接続できる。 3. IT システムを利用できる。 4. PC を用いて必要な情報を得る。 5. 電子ポートフォリオを作成する。
9 月 25 日（金） 4 限	藤村 朗教授 （機能形態学分野） 須和部京介助教 （歯周療法学分野）	高齢社会とチーム医療 1 脳梗塞などの疾患で入院した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、急性期の歯科医師の役割を理解する。	1. 脳卒中の急性期症状と全身および口腔の機能について説明する。 2. 急性期のチーム医療体制を説明する。 3. 病院における急性期の医療・歯科の連携医療を説明する。 4. 病院における急性期患者に対する口腔ケアの実施について説明する。
10 月 2 日（金） 1 限	藤村 朗教授 （機能形態学分野） 須和部京介助教 （歯周療法学分野）	高齢社会とチーム医療 2 脳梗塞などの疾患を合併した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、慢性期の歯科医師の役割を理解する。	1. 脳卒中の慢性期症状と全身および口腔の機能について説明する。 2. 回復期のチーム医療体制を説明する。 3. 医療・歯科医療の連携と在宅におけるチーム医療の基本を説明する。 4. 在宅での慢性期疾患を合併した患者に対する口腔ケアの実施について説明する。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
10月2日(金) 2限	城 茂治教授	自主学習 (出席確認なし)	
10月6日(火) 3限	城 茂治教授 (歯科麻酔学分野) 近藤尚知教授 (補綴・インプラント学講座)	高齢社会と歯科医療 1 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1. 高齢者で多く見られる基礎疾患を列挙する。 2. 糖尿病について説明する。 3. 高血圧症について説明する。 4. 糖尿病を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 5. 高血圧症を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。
10月6日(火) 4限	城 茂治教授 (歯科麻酔学分野) 近藤尚知教授 (補綴・インプラント学講座)	高齢社会と歯科医療 2 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1. 不整脈について説明する。 2. 心房細動を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 3. 抗凝固療法の適応について説明する。 4. 抗凝固療法中の高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。
10月8日(木) 4限	小林琢也准教授 (補綴・インプラント学講座) 熊谷章子講師 (口腔外科学分野)	高齢者の口腔疾患 1 口腔乾燥症の原因について理解することで、口腔乾燥を訴える患者に対する適切な医療面接法を習得する。	1. 口腔乾燥を訴える患者の医療面接の要点を理解する。 2. 口腔乾燥を訴える患者の診断について理解する。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について理解する。 4. 口腔乾燥症の診断基準を理解する。 5. 口腔乾燥症の治療法を理解する。
10月9日(金) 4限	城 茂治教授	自主学習 (出席確認なし)	
10月15日(木) 3、4限	岸 光男准教授 (予防歯科学分野) 小林琢也准教授 熊谷章子講師	高齢者の口腔疾患 2 口腔乾燥症の口腔診査法と検査に関する知識、技術、態度を習得し実践できる。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施する。 2. 検査の結果を評価する。 3. 検査の結果を説明する。 4. 検査結果から診断する。

成績評価方法

レポート (60%) ポートフォリオ・E-Learning (40%)

オフィスアワー

氏名	方式	曜日	時間帯	備考
城 茂治	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
近藤尚知	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
藤村 朗	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
岸 光男	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
小林琢也	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
熊谷章子	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。
須和部京介	B-i	月～金	随時	不在の時は教室員に伝言のこと。メールも可。